

実施体制及び国内外のネットワーク

提案主体名	JBA(日本バイオ炭普及会)・亀岡市セーフコミュニティ推進協議会・京都府・亀岡市・立命館大学・龍谷大学・京都学園大学
提案プロジェクト名	セーフコミュニティと農地炭素貯留による持続可能な環境型農村地域経営

① 実施体制(構成主体と役割分担)

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

添付図参照

実施主体	情報提供および指導・協力	目標及び役割
保津町自治会・河原林町自治会 亀岡市農業公社	立命館大学・京都学園大学・森林総合研究所 立命館大学・京都学園大学	地域自治体による竹林整備と竹炭生産と販売(集荷依頼) 竹炭の規格試験の実施依頼・竹炭のロット管理・堆肥と炭の混合実施と記録・炭堆肥の販売
亀岡カーボンマイナス協議会 京都学園大学	JBA・立命館大学・龍谷大学・亀岡市 JBA・立命館大学	竹炭の規格試験整備・その実施依頼と報告書管理・隔離炭素量認定(LCAとバリデーション)・クルベジ商標通常使用権設定契約・クルベジシールの貸与と協力金の支給 竹炭の規格試験の実施と報告・炭素量測定
農業組合法人ほづ・旭町エコファーマ等	JBA・立命館大学	炭堆肥の購入・クルベジ生産・ラベル添付・クルベジ販売
亀岡カーボンマイナス協議会	JBA・立命館大学・龍谷大学・京都学園大学・亀岡市・京都府・亀岡商工会議所	野菜販売小売店やレストランへのクルベジ活動の理解と協力要請・小売店における販促協力依頼、クルベジシールの集積によるエコポイント制度の創設と消費者還元
亀岡商工会議所・地元レストラン・小売店等	亀岡市・京都府・亀岡商工会議所	レストラン・小売店におけるクルベジの販売と販促
亀岡カーボンマイナス協議会	JBA・立命館大学・龍谷大学・京都学園大学・亀岡市・京都府・亀岡商工会議所	企業CSRとしてのクルベジシールの販売とカーボンクレジットの販売
亀岡市小中学校・教育委員会	立命館大学・龍谷大学・亀岡市・給食センター・クルベジ農家	クルベジを使った給食・各学校におけるクルベジ農法の指導と炭焼き指導を通じた食育や環境教育
亀岡市セーフコミュニティ推進協議会	日本セーフコミュニティ推進機構・アジアセーフコミュニティ認証センター・亀岡市・京都府	高齢者の心身の健康・安全の視点から、高齢者が参画し、生きがいを実感できるプログラムへの開発を担当。また、高齢者の健康にどの程度成果を与えたかを客観的に測定・評価を行う。 また、公共の場の安全という視点から、本プロジェクトにより、放置竹林や未整備里山のマイナス影響がどの程度軽減されるかを計測・評価する。

② 実施体制(プロジェクトマネジメントのための具体的な方法論)

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

添付図参照

保津カーボンマイナス協議会において、竹炭の製造標準書(製造基準書)・品質管理基準書・品質保証基準書の整備を行う。

JBAと保津カーボンマイナス協議会において、クルベジの商標通常使用権契約を行い、品質保証体制を確立する。

保津カーボンマイナス協議会はCSR手段としての農地炭素貯留運動を企業に協力依頼を行い、クルベジシールへの協賛願います。農業者が潤うことによって経済的循環が生まれ、持続可能となる。

他方、消費者エコポイントを含有するカーボンボランティアマーケットにおいて、企業へカーボンクレジットを販売し総合的に消費者と企業および農業者のネットワークを構築する。

「高齢者の安全・健康対策委員会」および「公共の場安全対策委員会」を設置し、具体的な取り組みの企画・推進を担当する。また、取組の成果については、すでに亀岡市において設置されている「セーフコミュニティサーベイランス研究会」が中心となって行う

③ 国内外のネットワーク(国内外のベストプラクティスの相互交流のための具体的な方法論)

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

国内のネットワーク

日本土壌協会を通じて、農業地域モデルとして農水省に働きかけを行い、地域間相互交流を目指す。また、全国の土壌学会員に通知いただき、農地土壌炭素貯留に関する広報を行う。同時に、日本バイオ炭普及会の会員、木質炭化学会会員、環境共生学会会員、イクレジャパンを通じて、炭化の原理応用性、持続可能な経済性、LC-CO₂、社会普及性等を評価いただき、普及に努める。地域コミュニティモデルとしては、「セーフコミュニティネットワーク」を通して他のセーフコミュニティとの相互交流を進める。

海外のネットワーク

本年、京都の立命館大学において、第2回Asia Pacific Biochar Conference <http://apbc2011.com/ja/index.html> がInternational Biochar Initiativeと連携して行われる。この大会は、世界の最先端を行く、亀岡市での本事業を見学するために開催される。世界各国から、農地炭素貯留に関する研究者、政治家、実業家等が数百人規模で参加され、積極的に討議が行われる。特に、オーストラリア、米国、東南アジア諸国、イギリスが積極的である。これらの国の研究者や実務家を通じて、世界標準規格設立へのアプローチを行う。他方、「インターナショナルセーフコミュニティネットワーク」への積極的な参加および個別の自治体との交流を進める。また、国内外で開催されるセーフコミュニティ会議を通してベストプラクティスに関する情報交流を進める。

④ 国内外のネットワーク(国内外の都市・地域との連携を強化するための具体的な方法論)

※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

地域学会・自治体学会等を通じて広報を行う。また、日本バイオ炭普及会、木質炭化学会、環境共生学会、イクレジャパンを通じて国内外の地域の行政官と連携する。

同時に、国内については、「セーフコミュニティネットワーク」を活用して、他の農村型セーフコミュニティを中心に新たな連携強化を進める。また、アジア地域セーフコミュニティネットワークを通じて「スタディツアー」や「ワークショップ」を開催し、本プロジェクトの成果を高齢化が進む農村における新たなセーフコミュニティを進めるモデルとして提供することにより、共通の課題を抱えるコミュニティ（自治体）とのパートナーシップを構築する。

※別紙様式3は、可能な範囲内でご提案願います。